

11/11

Mon

個人型 小口敬史 (泰阜中学校)

共同研究者 永田潤一郎
(文教大学 教授)

発問をもとにした生徒と教師の数学的 活動のあり方はどうあったらいいか

～教師の数学的活動とは～

「教師による数学的活動」という言葉を初めて耳にした私は、違和感を覚えました。生徒が数学を使って行う活動が「数学的活動」だととらえていたからです。しかし、永田先生のご講演から教師が授業を設計し、適切な場面で指導を行い、生徒が自力で考えるべきタイミングを見極めることも、数学的活動の一環だと考えるようになりました。

永田先生は、「生徒の活動は教師の活動のもとに成り立つ」とおっしゃっています。この言葉から私は、教師が生徒に対する重要な「キーワード」を生徒から引き出すことが、生徒の学びを支える上で必要不可欠だと感じました。そのためには単に知識を伝達するのではなく、生徒が自ら学び、深く納得できるような授業づくりが重要と考え、「これさえわかれば他の問題にも応用できる」や「この考え方が理解しやすい」と生徒が実感できる場面づくりを目指しています。そのためには、生徒が深く考えるための発問や問い返しが必要だと考えています。

日々の授業では、生徒同士の対話だけでなく、生徒と教師との対話も重視しています。しかし、私は発問の際、つい答えを提示してしまいがちで、これが今の課題です。

6月には永田先生に事前指導をしていただきました。永田先生には、一斉指導を授業の醍醐味としつつ、個別化や個性化を重視する現行の学習指導要領とのバランスを考える重要性をお話ししていただきました。私自身も一斉指導をコントロールできる力は教師にとって重要なスキルだと再認識しました。

永田先生は、授業を、子どもが補助輪をはずした自転車に乗れるようにする場面に例え、「支える大人が手を放す時は、手を放して大丈夫と感じた時」。授業では『見通しが持てた時。それは多くの生徒が解けるであろう時』と、あまりにも早い段階で手を放した自分の授業に的確なアドバイスをしてくださりました。「手を放す時」を追究している日々です。



共同研究者 永田先生から

小口先生は教員生活3年目。泰阜中の数学の授業を1人で担当している。事前訪問では熱心に数学を指導する姿を見せてくれたが、子どもの学びと共に教師の学びの実現が大変重要であると感じた。11月の公開授業を基に考えてみたい。



～日程～

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 受付 | 13:00～13:20 |
| ② 開会式 | 13:25～13:45 |
| ③ 公開授業 | 13:55～14:45 |
| ④ 授業研究会 | 14:55～15:35 |
| ⑤ 永田先生ご指導 | 15:35～16:25 |
| ⑥ 閉会式 | 16:30～16:40 |